

一般社団法人日本環境化学会主催
第61回講演会

「コメ中無機ヒ素をめぐる諸問題」

日時 2019年9月18日 (水) 会場 日比谷コンベンション
ホール
10時30分～16時45分
(東京都千代田区日比谷公園1-4)

参加費

会員 3,000円/ 学生会員 無料/ 非会員 6,000円/ 学生 1,000円

参加方法

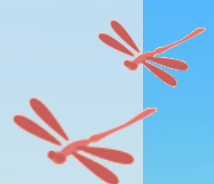
Web参加登録(8月1日オープン)

<https://www.j-ec.or.jp/seminar/kouen/kouen61.html>



講演内容 (詳細は裏面)

- 「無機ヒ素の多様な人体影響」
- 「日本人の無機ヒ素摂取量と摂取源—これまでにわかってきたこと—」
- 「コーデックス基準と国産コメ中の無機ヒ素濃度」
- 「農用地土壤汚染防止法のしくみと砒素に係る要件について」
- 「農用地土壤の分析法」
- 「農用地土壤ヒ素濃度と米中無機ヒ素濃度」
- 「米中ヒ素濃度低減化対策—カドミウムの事例との比較」



お問い合わせ お申込み

一般社団法人日本環境化学会事務局
TEL: 029-886-3185
MAIL: office@j-ec.or.jp
URL <https://www.j-ec.or.jp/index.shtml>

プログラム

(講演者敬称略)



10:30～10:35 開会

10:35～11:15 「無機ヒ素の多様な人体影響」

姫野誠一郎 氏 (徳島文理大学薬学部 教授)

バングラデシュでの調査事例を元に、ヒ素の健康影響が皮膚障害や皮膚がんのみならず、高血圧、糖尿病、喘息、認知能力低下など、多様であることを報告する。

11:15～11:55 「日本人の無機ヒ素摂取量と摂取源—これまでにわかってきたこと—」

小栗朋子 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)

日本人が日常的に摂取している無機ヒ素の主な摂取源や摂取量推定結果について報告する。

11:55～13:00 昼食

13:00～13:40 「コーデックス基準と国産コメ中の無機ヒ素濃度」

安井明美 (国立研究開発法人農研機構 食品研究部門 アドバイザー)

コーデックス食品委員会(CAC)におけるコメ中のヒ素基準値の設定経過、ヒ素の分析法及び国産玄米・精米中のヒ素含有実態調査結果を紹介する。

13:40～14:20 「農用地土壌汚染防止法のしくみと砒素に係る要件について」

小林明子 (環境省 水・大気環境局 土壌環境課 農用地汚染対策係長)

農用地土壌汚染防止法の現行のしくみについて説明し、農用地汚染対策地域の指定要件 (特に砒素に係るもの) について、今後想定される事項を説明する。

14:20～14:35 休憩

14:35～15:15 「農用地土壌の分析法」

藤森英治 (環境省環境調査研修所 主任教官)

講演の簡単な概要：環境省で規定された農用地土壌の金属類の分析法について、その概要と問題点について概説する。

15:15～15:55 「農用地土壌ヒ素濃度と米中無機ヒ素濃度」

村上政治 (国立研究開発法人農研機構 本部理事長室理事長補佐チーム 上級研究員)

水田土壌中のヒ素等金属濃度と米中の無機ヒ素濃度に関し、現地圃場のデータから得られた知見に基づく発表を予定しています。

15:55～16:35 「米中ヒ素濃度低減化対策—カドミウムの事例との比較」

荒尾知人 (国立研究開発法人農研機構 中央農業研究センター 所長)

農林水産省からは「コメ中のカドミウム低減のための実施指針」が公表されており、我々の開発したカドミウム低吸収性イネの利用が推奨されている。米中ヒ素濃度低減化対策として、稲栽培期間中の水田の落水管理があるが、この対策では通常のイネでは米中カドミウム濃度が増加するため、カドミウム低吸収性イネを利用した落水管理がコメのヒ素・カドミウム同時低減の有望な対策である。

16:35～16:45 まとめと閉会